

琉球舞踊定期公演における上演作品に関する考察 — 沖縄県かりゆし芸能公演 (1993年～2001年) の資料より —

花城洋子

A consideration of the works in regularly performed Ryukyuan traditional dances using data from Okinawa Kariyushi traditional performances from 1993 to 2001

Yoko Hanashiro

要 旨

芸能文化が観光振興の担い手として利用されつつあり、定期有料公演として企画された「沖縄県かりゆし芸能公演」(以後かりゆし公演)は、それを代表するひとつである。本稿は、観光振興を趣旨とした舞踊公演の上演実態の基礎資料を得る目的で資料収集および調査を行った。対象は1993年～2001年のかりゆし公演(公演数396)である。また、沖縄県芸術祭公演(以後県芸公演)や国立劇場公演の調査資料を比較対照に用いた。調査の結果、かりゆし公演の上演作品や各作品の上演(回)数が得られた(表1)。かりゆし公演における琉球舞踊作品ジャンル別の上演比率は、古典舞踊37.2%、雑踊38.8%、創作舞踊23.3%、その他0.6%である。また上演率の高い作品は古典舞踊や雑踊ジャンルの作品に多く、しかもこれらの一部に集中する傾向がみられた。またかりゆし公演では、演目(作品)において所要時間や衣装等の視覚的要因が上演率の高さに影響する傾向があり、古典女踊にその傾向が見られ、「四つ竹」は、その中でも上演率が最も高い。一方、公演趣旨の異なるかりゆし公演と県芸公演では古典舞踊「高平良万歳」や「かせかけ」がいずれも上位を占めている。これについては、両作品の知名度や「高平良万歳」の高度な技法等が上演率に影響を与えている要因であると考えられるが、今後の調査で明らかにしたい。また、今回の調査対象は送り手側(企画、実演家)の資料であり、当然受け手側(観客)の資料分析も課題として残っている。

キーワード：琉球舞踊、観光、古典舞踊、上演率

Abstract

The role of Okinawan classical dance in promoting tourism is significant, and regularly performed Okinawan Kariyushi traditional dances (hereafter, Kariyushi) have been playing an important role. This paper investigates the works performed and the frequency of the performances at Kariyushi festivals from 1993 to 2001 for the purpose of understanding the role of Ryukyuan dance performances for tourists. Performances at the Okinawa Art Festival and the National Theater of Japan were used for comparison. not needed in an abstract. The frequencies of different categories of dance performances at Kariyushi are classical dance, 37.2%; use italics 38.8%; creative dance, 23.3%; and other 0.6%. In both festivals, classical dance and zou odori or zoo odori or zō odori outnumbered others in the number of performances. The Kariyushi festival (the tourism-oriented form of Okinawan classical dance) tends to consider performance time and dancers' appearance as two main factors in choosing which works to perform. This is particularly true of female classical dance, especially yotsudake (female classical dance), which is performed most. In both festivals, even though each has a different objective, takadōramanzai and kasekake-use italics show high frequency in performance. Factors such as popularity and high-level technique are presumed to influence the frequency of performances. As for this, further study is required. This paper investigates data from the perspective of the performer, not the audience. Analysis of data from the audience perspective should be carried out in the future.

Key words: Ryukyuan dances, tourism, classic a l dance, frequency of performances

はじめに

戦後、沖縄における伝統文化の保存・継承の気運の高まりは、今日の琉球舞踊の発展の礎となり、沖縄タイムス社や琉球新報社が開催する「舞踊コンクール」は、応募者数の増加等舞踊人口の増大に寄与してきた⁶⁾。そして、このコンクール（資格審査型）受賞者の増加による波及効果は、実演家や舞踊指導者数さらに公演数の増加⁸⁾にも現れて、1980年代以降、県内外・海外で行われた琉球舞踊公演は、企画・内容においても多種多様である。

これらの公演には、沖縄の観光振興に寄与する目的をもって企画された公演もみられ、1993年に開始し現在も継続している「沖縄県かりゆし芸能公演」（以後かりゆし公演）は、近年に見られる本格的な有料定期公演である。その後、文化財に登録されている観光施設「首里城公園」でも定期・定時舞台公演（資料 ）が実施され、さらに実態は把握されていないが、観光ツアーに組み込まれている琉球舞踊ショー等多々みられ、伝統芸能（舞踊）が文化・観光の担い手として果す役割は益々大きくなっていると思われる。世界でも、「舞踊や芸能といった身体表現文化」が文化主導型発展戦略で観光に寄与しているバリの芸能は、注目に値する¹²⁾。

筆者は以前に琉球舞踊の継続公演の実態を調査し、公演の趣旨が作品の上演数に反映することを報告⁹⁾した。このことから、趣旨を反映する公演の作品等の調査・分析は、観光における芸能文化（舞踊）の活用にとって有効な手掛かりになると考え、観光振興を趣旨としている公演の資料収集を行った。

調査対象は、1993年から2001年に開催された沖縄県かりゆし芸能公演（公演数396）である。公演プログラムから、上演舞踊作品や上演数を調査した。そして上演率を手掛かりに、公演趣旨を反映する作品とその作品の特徴を比較し、上演率が高い要因について検討した。観光振興という視点では、舞踊公演の送り手（企画者・実演家）と受け手（観客）両サイドの調査・分析が必要であるが、今回は前者側の調査であることを断っておきたい。またかりゆし公演の上演作品や上演率の比較対照には、以前に報告^{9)・10)}した芸術文化の保存・継承を趣旨とする沖縄県芸術祭古典芸能公演と国立劇場琉球芸能公演のデータを用了。

かりゆし公演は、現在活動している琉球舞踊のあらゆる流・会派に出演の門戸が開かれていて参加団体は多い。この点は、この公演の上演作品に対して実演家の様々な受け止め方が得られる貴重な対象となり得ると考える。

将来、琉球舞踊版プリアタン・スタイル：「地域にねざした民間活力と生物学的合理性を徹底的に活用した巧妙な戦略によって築きあげられた世界最先端の舞踊表現

形式」¹¹⁾の出現の可能性を期待して、本稿の実演調査資料が、琉球古典舞踊を継承している舞踊家やそれに関わる人々にとって参考になり、舞踊文化の伝承と発展に役立つことを願うものである。

研究方法

調査資料 沖縄県かりゆし芸能公演プログラム：1993年 - 総公演数40回、1994年 - 50回、1995年50回、1996年50回、1997年50回、1998年50回、1999年44回、2000年50回、2001年35回、計419（舞踊他古典音楽を含む）中、舞踊公演396を対象にした（4は未収集）。国立劇場琉球芸能公演プログラム：1967年～2002年（公演数37）。

沖縄県芸術祭古典芸能公演プログラム：1972年～2004年（公演数62）。

資料の処理 舞踊作品の分類は、国立劇場琉球芸能公演や沖縄県芸術祭古典芸能公演の作品分類記録に基づいた。

さらに、舞踊家や芸能研究家に聞き取りを行った。

結果および考察

1. 沖縄県かりゆし芸能公演の実態

沖縄県かりゆし芸能公演（以後かりゆし公演という）は、「琉球舞踊の鑑賞の機会を提供し、若手舞踊家の育成を図るとともに、県立郷土劇場の利活用を推進し併せて観光振興にも寄与することを目的に…」という趣旨で実施され、今日活動している琉球舞踊界のあらゆる流・会派を対象とし、「舞踊コンクール受賞者」を中心とした門弟の登用が多くみられる（舞踊家への聞き取りによる）。かりゆし公演の開催年頃から、前述の二社が主催する「舞踊コンクール」の応募者数がピークを示し始め数年は比較的安定傾向にあり、沖縄の舞踊界では、いわゆる“舞踊人口の飽和現象”がみられ、充実期を迎えている⁷⁾。しかしその後は応募者数の減少傾向がみられる。

1) かりゆし公演の上演舞踊作品と上演回数

1993年～2001年に上演されたかりゆし公演396回について、プログラムから得られた全上演作品名、および上演数（回数）を昇順で示したのが表1である。上演作品総数は475、上演回数は4,143回得られた。また沖縄県芸術祭古典芸能公演（以後県芸公演という）や国立劇場琉球芸能公演（以後国劇公演という）記録に基づいて分類した作品を、古典舞踊、雑踊、創作舞踊、その他に区分し表1中に示した。

かりゆし公演の上演作品数と上演回数は、古典舞踊27作品 - 1,546回、雑踊32作品 - 1,541回、創作舞踊414作品 - 1,036回、その他2作品 - 20回である。さらに、全作品について上演数範囲を比較すると、上演数190～103回が12作品、83～50回が11作品、49～20回は20作品、残り428

表1. 沖縄県かりゆし芸能公演における琉球舞踊作品と上演数

番号	作品名	上演数	番号	作品名	上演数	番号	作品名	上演数
1	四つ竹	190	57	木綿花	12	113	傘車	4
2	高平良万歳	183	58	芋引	11	114	くいしくがな	4
3	かせかけ	169	59	本花風	11	115	寿獅子	4
4	谷茶前	162	60	唐手	11	116	白扇の舞	4
5	加那よー・天川	134	61	梅の香り	10	117	樽ばやし	4
6	前の浜	129	62	作田節	9	118	飲み兄弟	4
7	鳩間節	118	63	江佐節	9	119	華豊の舞い	4
8	花風	117	64	磯千鳥	9	120	真津がま	4
9	かぎやで風	110	65	かたみ節	9	121	本部ナークニー	4
10	むんじゅー	106	66	まやーぐあー	9	122	夕日暮	4
11	黒島口説	104	67	海人	8	123	油断するな	4
12	浜千鳥	103	68	塩焚きアチネー	8	124	柳	3
13	金細工	92	69	チョッカリ節	8	125	渡地舟	3
14	上り口説	83	70	花	8	126	江戸上り口説	3
15	若衆特牛節	76	71	花笠おどり	8	127	あしび島	3
16	貴花	70	72	祝い節めでたい節	7	128	網打ちゃー	3
17	醜童	66	73	兄弟小	7	129	糸満大漁	3
18	天川	58	74	京太郎	7	130	稲しり	3
19	ぜい	57	75	国頭捌理	7	131	祝(華ぬ御座節)	3
20	取納奉行	57	76	白南風太鼓	7	132	うりずんの花	3
21	太鼓ばやし	55	77	ニーセーター	7	133	かりゆしの踊い	3
22	稲まづん	51	78	みやらび	7	134	かりゆしの御座	3
23	獅子舞	50	79	あしびパーランク	6	135	かりゆしの舞い	3
24	瓦屋節	49	80	安里ゆんた	6	136	北風の至情	3
25	湊くり節(笠踊り)	49	81	うむい	6	137	兄弟獅子	3
26	本貴花	45	82	今帰仁の城	6	138	胡蝶の舞	3
27	汀間当	45	83	なりく踊	6	139	魚売りアン小	3
28	仲里節	44	84	花笠	6	140	じーなー	3
29	加那よー	42	85	一つ花	6	141	坂本節	3
30	下り口説	41	86	人盗人	6	142	ザンザブロー	3
31	若衆ぜい	39	87	まるまぼんさん	6	143	新鳩間節	3
32	松竹梅鶴亀	38	88	舞方	6	144	砂辺の浜	3
33	武の舞	34	89	宮城クワデサー	6	145	銭鳴ヒャー	3
34	日傘踊り	31	90	美童ナークニー	6	146	大漁	3
35	本嘉手久節	30	91	娘ジントヨー	6	147	楽しき朝	3
36	揚作田	30	92	戻り籠	6	148	辻の華	3
37	いちゅび小節	27	93	上り・下り口説	5	149	鼓棒	3
38	パーランクー	25	94	あしび獅子	5	150	でいぐぬ花心	3
39	鷺鳥	25	95	海やからー	5	151	七月あしび	3
40	女こてい節	23	96	通い船	5	152	馴れし久葉笠ぐあ	3
41	若衆揚口説	21	97	寿の舞	5	153	二面おどり	3
42	八重瀬の万歳	20	98	首里城	5	154	初春	3
43	道輪口説	20	99	デイゴ	5	155	浜下り	3
44	馬山川	19	100	与那国のまやー	5	156	浜あしび	3
45	川平節	15	101	四神太鼓	5	157	武技の舞い	3
46	恋の花	15	102	糸満乙女	4	158	豊漁	3
47	海のチンポラー	15	103	鶴亀	4	159	マミドーマー稲シ	3
48	南洋千鳥	14	104	揚口説	4	160	やからー海人	3
49	久志の若按司道行口説	14	105	上り口説ばやし	4	161	ゆらていく	3
50	護身の舞	13	106	下り口説ばやし	4	162	若衆獅子舞	3
51	小浜節	13	107	早口説	4	163	若衆花太鼓	3
52	トゥバラマー	13	108	あしび	4	164	四季口説	2
53	なぎなた	13	109	あしび太鼓	4	165	あやぐ	2
54	夏すがた	13	110	海の民	4	166	越来節	2
55	マミドーマー	13	111	うりずん	4	167	江戸下り口説	2
56	赤馬節	12	112	傘影ぬ想い	4	168	阿良岳節	2

ジャンル：古典舞踊 ，雑踊 ，創作舞踊

表1. つづき

番号	作品名	上演数	番号	作品名	上演数	番号	作品名	上演数
169	海やかりゆし	2	225	昔の若さ	2	281	梅に鶯	1
170	エイサーパーランクー	2	226	村めぐり	2	282	うりずんの美童	1
171	沖縄育ち	2	227	桃里よ	2	283	うるま太鼓	1
172	踊いナークニー	2	228	森川のくらし	2	284	うるま美童	1
173	傘影に連りてい	2	229	森川の子	2	285	エイサー	1
174	傘影によらてい	2	230	八重山鳩間節	2	286	恵比寿大黒	1
175	かりー太鼓	2	231	やから	2	287	扇花	1
176	空手舞踊	2	232	屋慶名クワデサー	2	288	大風	1
177	古見の浦	2	233	ゆうなの花	2	289	大島チョッカリ節	1
178	くぼがす	2	234	ゆひんぬ前	2	290	沖縄娘	1
179	恋路浜	2	235	ゆらていく節	2	291	踊いあや	1
180	恋路	2	236	読谷山シューライ節	2	292	踊り太鼓	1
181	琴の調べ	2	237	よらてい遊ば	2	293	想い花	1
182	ことぶき	2	238	竜宮の舞い	2	294	御祝踊り	1
183	寿	2	239	若夏の遊び	2	295	御祝笠	1
184	猿まわし	2	240	諸屯	1	296	女心	1
185	三色蝶	2	241	アッチャマー	1	297	御物奉行	1
186	忍び	2	242	相合傘	1	298	開花	1
187	島ぬ美童	2	243	藍染み紺染み	1	299	孵で立	1
188	祝扇の舞	2	244	赤田花風	1	300	笠の段	1
189	銭掛の花	2	245	あけぼの乃舞	1	301	風ゆイヤリ	1
190	情念	2	246	朝凧	1	302	かなよー・泊高橋	1
191	新加那よ	2	247	あしび馬踊り	1	303	カラバ	1
192	シンターゲーリ遊び	2	248	あしびエイサー	1	304	嘉利	1
193	大漁節	2	249	あしびしょんがねー	1	305	かりゆし太鼓	1
194	大漁谷茶前	2	250	あしび千鳥	1	306	かりゆしの庭	1
195	千鳥	2	251	あしび庭	1	307	姉妹神かりゆしの船	1
196	ちばり節	2	252	汗水節	1	308	唐手舞踊	1
197	ちばりよー	2	253	遊庭の想い	1	309	恋し石くびり	1
198	長者の大主	2	254	遊び島	1	310	冠千の舞い	1
199	茶屋の月	2	255	遊び銭太鼓	1	311	菊の花	1
200	チンラー・谷茶前	2	256	遊びナークニー	1	312	玉扇太鼓	1
201	月眺め	2	257	遊び仲風	1	313	玉扇の舞	1
202	月夜の語れ	2	258	遊び庭の想い	1	314	具志堅小唄	1
203	手水の縁	2	259	雨乞い	1	315	清らや	1
204	唐の少年	2	260	網引き口説	1	316	ぐえーま	1
205	殿様繁昌節	2	261	綾	1	317	久葉笠小	1
206	仲直り三良小	2	262	あやかり	1	318	久葉笠	1
207	今帰仁みやらび	2	263	紋園太鼓	1	319	久米の島節	1
208	初ムーチー	2	264	あや竹	1	320	巖の松	1
209	鳩間小船	2	265	綾羽の舞い	1	321	恋しクガナー	1
210	花織太鼓	2	266	新川大漁節	1	322	恋の渡し舟	1
211	花のエイサー	2	267	安里屋	1	323	恋がき	1
212	春あしび	2	268	安波節	1	324	幸福の舞	1
213	春の舞	2	269	伊集まの郷	1	325	越来ヨー	1
214	春の調べ	2	270	漁り火	1	326	胡蝶の情	1
215	春爛漫	2	271	いざり火	1	327	鼓棒	1
216	舟はじ囃し	2	272	いぬひな節	1	328	コンチョウロウ姉小魚小	1
217	豊年	2	273	伊良部トーガニー	1	329	里帰り	1
218	炎獅子	2	274	祝い花	1	330	潮汲	1
219	豊年太鼓	2	275	浮かれ花	1	331	城ぬ下	1
220	幕開舞踊	2	276	歌てい踊ら	1	332	四季の喜び	1
221	真福地のはいちゃう	2	277	海	1	333	忍び仲島節	1
222	新風	2	278	海魂	1	334	島唄	1
223	三村踊り	2	279	海の幸	1	335	島栄て	1
224	村遊び	2	280	うないぬ達	1	336	島や若夏	1

表1. つづき

番号	作品名	上演数	番号	作品名	上演数	番号	作品名	上演数
337	祝賀の舞	1	385	夏ん涼さ	1	433	美ら島	1
338	白百合	1	386	布さらし	1	434	弥勒節	1
339	翔節の舞い	1	387	布の踊り	1	435	美童エイサー	1
340	祝豊の舞い	1	388	野原あしび	1	436	麦 笠	1
341	首里城賛歌	1	389	野辺ぬ花遊び	1	437	群 星	1
342	首里風	1	390	ヒートウドーイ	1	438	無憂華	1
343	新谷茶前	1	391	白寿二才	1	439	むかしはじまりや	1
344	涼さ美らさ	1	392	初 宴	1	440	村興し	1
345	涼 風	1	393	初 寛	1	441	夫婦鶴	1
346	す玉貫玉	1	394	花の若衆鶴松・亀千代	1	442	目覚め獅子	1
347	鈴の音	1	395	花想い	1	443	目度い節	1
348	石扇の花	1	396	花笠安里屋	1	444	毛遊び	1
349	銭太鼓	1	397	花笠節	1	445	本部大漁	1
350	銭 鳴	1	398	花風車	1	446	桃売りアン小	1
351	田 植	1	399	華 車	1	447	森川の小踊	1
352	太鼓曲打ち	1	400	花とこころ	1	448	ゆうとい	1
353	ちぎり	1	401	華獅子	1	449	やいま	1
354	大漁宝船	1	402	花と蝶	1	450	八重山唄の島・舞いの島	1
355	竹富のクイチャー	1	403	花ぬ遊び	1	451	ゆうな	1
356	たちうとっし	1	404	花やかりゆし	1	452	ゆがふ	1
357	旅 路	1	405	花散る里	1	453	雪払い	1
358	谷茶前網打ちャー	1	406	花の宴	1	454	豊 節	1
359	だんじゅかりゆし	1	407	華の美童	1	455	夢 生	1
360	Di. Di. Di	1	408	花の美童	1	456	夢にこと語てい	1
361	千鳥節	1	409	はねーきフィーフィー	1	457	与那国シヨンガナー	1
362	ちばり太鼓	1	410	母子花	1	458	与那原の浜	1
363	北谷真牛	1	411	浜	1	459	喜びぬ獅子	1
364	中作田	1	412	春の風	1	460	ゆがふ黄金畑	1
365	蝶、牡丹・梅と鶯	1	413	春の緑	1	461	世果報年	1
366	長寿の舞い	1	414	はるどうない	1	462	余音の花	1
367	茶売やー	1	415	パラダイスうるま島	1	463	琉扇の舞	1
368	ちんぬくじゅーし	1	416	ふぁーかんだに踊る	1	464	六 段	1
369	月の夜	1	417	百かりゆし	1	465	吾が島のプーリ	1
370	月見踊り	1	418	ひゆく	1	466	若衆鞆鼓踊り	1
371	月 夜	1	419	舟 子	1	467	若衆まり踊り	1
372	月の客	1	420	平成舞い	1	468	若衆獅子エイサー太鼓	1
373	月影の想い	1	421	ヘイ助おじー	1	469	若衆出発	1
374	鼓囃子	1	422	棒しばり	1	470	渡地の花	1
375	ツナ・つな・綱	1	423	豊穰の詩	1	471	童子と若獅子	1
376	つらね	1	424	豊年世	1	472	別れ、出船、海やかりゆし	1
377	殿様の想い	1	425	炎獅子	1	473	わかれ	1
378	ときめき	1	426	本部抛	1		その他	
379	虎頭山	1	427	まどるま	1	474	総舞踊・フィナーレ	16
380	ながらた	1	428	間の物	1	475	舞踊劇	4
381	ノロ加那志と精霊達	1	429	まんしゆく節	1		計	4,143
382	ナークニー汀間当	1	430	満月太鼓	1			
383	情の唄	1	431	港 節	1			
384	夏の夕暮	1	432	雅華太鼓	1			

作品は19回以下である。また、かりゆし公演においては作品の上演回数之差が大きく、最多上演作品「四つ竹」- 190回から最小の「諸屯他231作品」- 1回に及んでいる。

上演数の多い上位10作品を挙げると、「四つ竹 - 古典女踊」、「高平良万歳 - 古典男踊」、「かせかけ - 古典女踊」、「谷茶前 - 雑踊」、「加那よー・天川 - 雑踊」、「前の浜 - 古典男踊」、「鳩間節 - 雑踊」、「花風 - 雑踊」、「かぎやで風 - 古典老人踊」、「むんじゅるー - 雑踊」となっていて、古典舞踊と雑踊が半々を示す。首里王府の庇護のもと、洗練され芸術性豊かな作品として伝承されてきた古典舞踊⁵⁾、一方、明治・大正期に庶民生活に素材を求めて、画期的な試みで成功した雑踊が、今日のかりゆし公演での作品選定において高い支持を得ていることがわかる。

戦後誕生した創作舞踊の数については、勝連¹⁾によると確認されているだけで800以上あるといわれ、現在に至ってはさらなる増加が予想されるが、実態は把握されていない。本調査で、かりゆし公演で上演された創作舞踊の数は414であった。創作舞踊で最多上演数を示した作品「武の舞 - 作品番号33」は、同名複数作品（作品名は同じでも創作主が異なる）である。この「武の舞」は、沖縄独自の文化として育まれた武術を代表する空手や、器具（サイ、トイファー他）を持って心身の鍛錬と護身の術の目的で伝承された¹³⁾古武道を取り入れ、舞踊化された作品である。琉球舞踊と空手、いずれも沖縄の無形の伝統文化であり、その融合で誕生した創作作品である。

一方、創作舞踊で最多上演数を示した作品は、作品番号51「小浜節」・54「夏すがた」で、上演数13回であった。また、創作舞踊414作品中230の過半数を占める作品が上演数1回のみである。今回、創作舞踊に分類した作品は多様で、前述の同名複数作品や既成の音楽作品名が舞踊作品名となっているもの、さらに民俗芸能等、創作舞踊ジャンルに分類した作品は多い。

2) 作品ジャンル別比較

上演率の年推移

かりゆし公演で上演された舞踊作品ジャンル別の上演率（ここでは全上演作品数に対する各ジャンルの上演数の割合のことである）を、年推移（1993年 - 2001年）で示したのが図1である。

古典舞踊の上演率は42%～32.5%（平均37.2）、雑踊41～35%（38.8）、創作26～18%（23.3）、その他（フィナーレ・総舞踊・舞踊劇）1.4～0.3%（0.6）を示している。かりゆし公演では、一公演あたりの演目数が10～11作品で構成されているものが比較的多く、仕様書（資料）で「古典舞踊及び雑踊りの中から5演目以上入れること」が記載されている点を考慮すると、古典と雑踊を合わせた上演率が50%以上を占めることになる。今回のかりゆし公演の資料では平均上演率76%を示し、古典舞踊と雑踊ジャンルの作品がプログラム構成の主流になっていることがわかる。

上演率の年推移は、古典舞踊は若干減少傾向が見られるのに対し、創作舞踊では増加している。この両ジャンルの上演率の変動は、公演の開始後4年間は大きく、増減パターンも相関関係を示している。前述の留意事項による規制はあるが、各ジャンルの上演作品の選択は、古典舞踊と創作舞踊の間で調整されていると推察されるが、詳細な調査を行っていないので次の課題とする。

作品数比率と上演数比率について

図2は、前述のジャンル別作品数と上演数（古典舞踊 - 27作品、上演回数1546回、雑踊 - 32作品、1541回、創作舞踊 - 414作品、1036回、その他 - 2作品、20回）を基に、作品数と上演数の各比率について舞踊ジャンル間で比較したものである。

作品数比率（上演作品総数に対する各ジャンルの上演作品数比）は、作品数が414ある創作舞踊が最も高く87

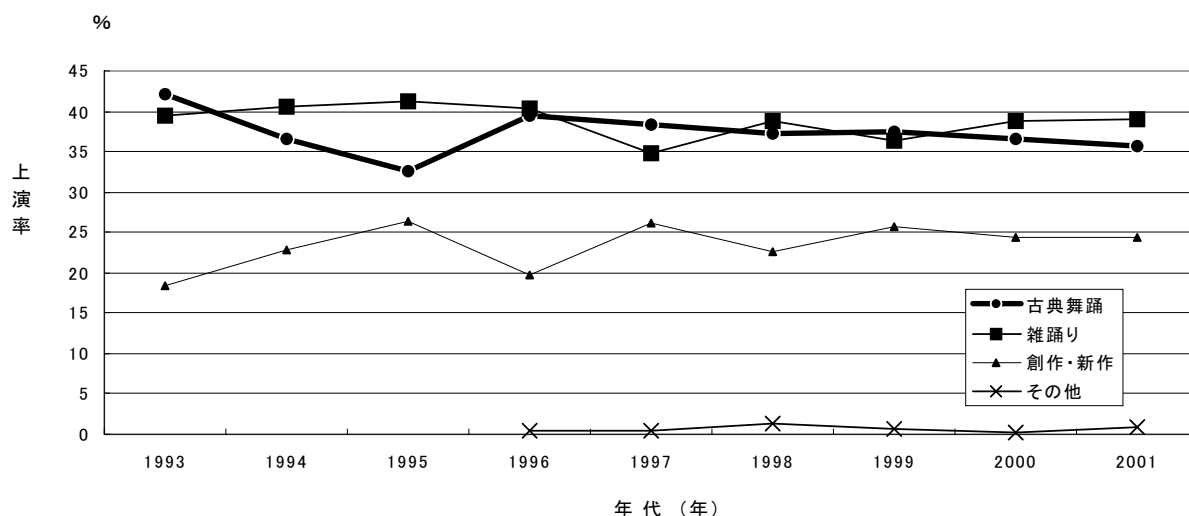


図1. 琉球舞踊ジャンル別上演率の年推移

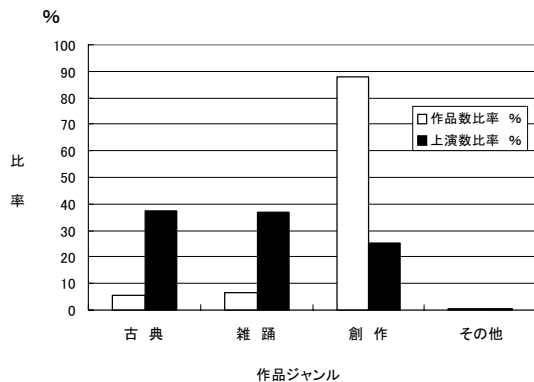


図2. ジャンル別作品数比率と上演数比率の比較

%を示し、古典舞踊は5.6 %、雑踊り6.7 %、その他0.4 %である。一方、上演数比率（上演総数に対する各ジャンルの上演数比）は、古典舞踊と雑踊りがほぼ同比率で37 %、創作舞踊が25 %を占めている。

舞踊ジャンル間の作品数と上演数の比率は、逆の傾向を示している。作品数の少ない古典舞踊や雑踊りの上演率が高く、対する、圧倒的な数の創作舞踊の上演率は低い。

2. 趣旨が異なる公演における古典舞踊の上演

上演率が作品の特性や公演の趣旨、鑑賞対象者等影響を及ぼす要因であることを以前に指摘⁹⁾した。今回、要因のひとつである公演の趣旨の相違が、古典舞踊の上演作品やその上演率にどのように反映しているか比較を行った。

かりゆし公演は若手舞踊家の育成及び観光振興への寄与を設立趣旨とするのに対して、国劇公演及び県芸公演は、伝統ある芸術文化の保存、継承を謳っている。

1) 古典舞踊上演率の三公演比較

図3は、かりゆし公演と対照公演である国劇場公演及び県芸公演について、作品ジャンル別（古典舞踊・雑踊・創作舞踊）上演率の比較を示したものである。

かりゆし公演のジャンル別上演率を降順で示すと、雑踊 - 古典舞踊 - 創作舞踊となっている。一方、対照二公

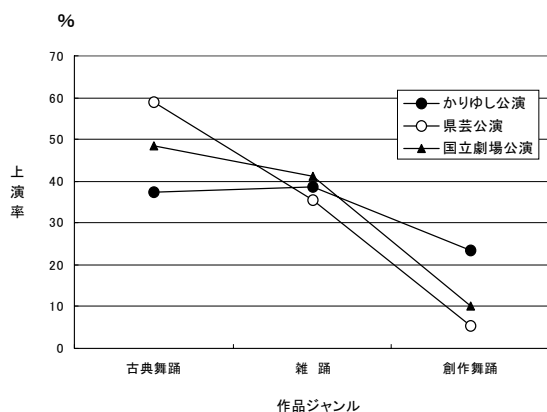


図3. 三公演の琉球舞踊ジャンル別上演率

演は、古典舞踊 - 雑踊 - 創作舞踊の順である。かりゆし公演は、古典舞踊の上演比率が他の二公演に比べて低く、逆に創作舞踊は高い。これら三公演中、最も古典の上演率が高いのは、沖縄県芸術祭古典芸能公演で59 %、次いで国立劇場琉球芸能公演は48.6 %、そしてかりゆし公演は37.3 %である。このように演目（作品）の選択において、古典舞踊が占める比率はかりゆし公演より伝統保存の趣旨が強い対照二公演で高い結果が示された。

また、かりゆし公演は古典舞踊、雑踊、創作舞踊の各ジャンル間の上演率の差が比較的小さい。この点について、舞踊家の島袋君子氏は「観客が退屈しないように、できるだけバラエティーに富むプログラムを構成することに思慮・工夫をしている」と述べていて、観光振興への寄与も趣旨としているかりゆし公演では、出演者側が上演作品のジャンルに偏りがないように、観光客を含めた一般の鑑賞者に対する心配りを意識した一面がみられる。

2) 古典舞踊作品間上演率の三公演比較

表2は、かりゆし公演と県芸公演で上演された古典作品の上演率を示した。かりゆし公演は26作品が48.1 %~0.2 %（平均14.4 %）、県芸公演は27作品55.5 %~1.8 %（19.7 %）の範囲にあり、後者が上演率はやや高い。

作品別上演率を比較するために、両公演で示された最高上演率（かりゆし公演48.1 %、県芸公演55.5 %）を100として66.6 %以上を便宜上上演率の高いグループとした。該当比率は、かりゆし公演は32 %、県芸公演37 %以上である。同様に、上演率中程度のグループは、かりゆし公演31.9~16.1 %、県芸公演36.9~18.6 %、低いグループは、かりゆし公演16 %以下、県芸公演18.5 %である。

上演率の高い古典舞踊作品

上演率の高いグループの作品は、かりゆし公演においては、四作品「四つ竹 - 女踊り」、「高平良万歳 - 男踊り」、「作田節 - 女踊り」、「かせかけ - 女踊り」、「前の浜 - 男踊り」で、県芸公演では、「高平良万歳 - 男踊り」、「かせかけ - 女踊り」、「かぎやで風 - 老人踊り」、「若衆特牛節 - 若衆踊り」である。両公演で上演率二位と三位の作品が共通し、前者は「高平良万歳」、後者は「かせかけ」となっている。古典の男踊で最高峰に位置づけられる「高平良万歳」、国際的に高く評価されている²⁾女踊「かせかけ」はいずれも知名度が高く、演目選択の優先順位が高い理由になっていると思われるが、さらなる分析が必要である。

最多上演作品は、かりゆし公演は「四つ竹」、県芸公演は「かぎやで風」で、両者に共通している点として、いずれも幕開けにふさわしい内容の作品である²⁾。

上演率が中程度のグループは、かりゆし公演が「かぎやで風」他3作品、県芸公演は「前の浜」他7作品ある。

上演率の低い古典舞踊作品

比較的上演率の低い古典舞踊作品であるが、かりゆし公演では、「天川 - 女踊り」以下18作品、県芸公演では「四つ竹 - 女踊り」を含め15作品みられる。これら上演率の低い作品を上演古典作品総数の比率で表すと、かりゆし公演では古典舞踊作品全体の約70%、県芸公演では約50%にあたり、特にかりゆし公演では数多くの古典作品が観客の目に触れる機会が少ないことが示唆される。今回上演率が低い作品については考察していないが、検討の余地があると考えている。

上演率差が顕著な古典舞踊作品

「四つ竹 - 女踊り」は上演率がかりゆし公演で高く、県芸公演で低い。また「八重瀬の万歳 - 男踊り」、「作田節 - 女踊り」、「柳 - 女踊り」、「諸屯 - 女踊り」の各作品の上演率はかりゆし公演で低く、県芸公演では高い。さらに後者3作品は上演率の高低に関わらず、両公演で倍以上の差がみられ、公演趣旨の相違がこれら作品の上演率に反映していると思われる。

表2. 琉球古典舞踊作品の上演率

舞踊作品名	単位 %	
	かりゆし公演	県芸公演
四つ竹	48.1	12.9
高平良万歳	46.3	46.2
作田節	42.7	20.3
かせかけ	42.7	42.5
前の浜	32.6	29.6
かぎやで風	27.8	55.5
上り口説	21	14.8
若衆特牛節	19.2	37
醜童	16.7	27.7
天川	14.6	18.5
ぜい	14.4	29.6
稲まづん	12.9	16.6
瓦屋節	12.4	29.6
笠踊り	11.6	5.5
本貫花	11.3	18.5
下り口説	10.3	12.9
若衆ぜい	9.8	0
本嘉手久節	7.5	20.3
揚作田	7.5	5.5
女こてい節	5.8	5.5
八重瀬の万歳	5	24
護身の舞	3.2	1.8
芋引	2.7	5.5
江佐節	2.2	3.7
四季口説	1.5	0
柳	0.7	11.1
諸屯	0.2	24
伊野波節	0	11.1
仲良田節	0	3.7

3. かりゆし公演における古典舞踊の上演率と作品時間

これまで舞踊作品の長さ（作品時間）が上演率に影響を与える要因として指摘されることはあったが、実態を捉えた報告はない。

図4は、かりゆし公演における古典舞踊について、作品時間と上演率を示したものである。作品時間（作品の長さ-分-）は国劇公演の記録⁴⁾を、また、記録がない作品（*印）については安富祖流の舞踊曲時間（CDに記載）を用いた。調査対象公演では上演がない「伊野波節」は、古典女踊を代表する作品として知られているため、図中に（ ）で記した。

上演率が高い作品は、5～9分の上演時間に比較的多くみられる。これらの作品は「四つ竹」、「高平良万歳」、「かせかけ」、「前の浜」等である。一方、作品時間が10分以上の古典女踊は、一作品（天川）を除いて上演率10%以下で非常に低く「柳」や「諸屯」は最も低い。本調査資料のかりゆし公演で上演のない「伊野波節」は古典女踊の中でも最長で20分を要する。

かりゆし公演では2004年の留意事項（資料）に「柳・「諸屯」・「伊野波節」の作品が演目として外すことが記述されている。今回の対象資料は2001年以前のもので規制の要因については明らかではない。しかし、玉城節子氏は「伊野波節」のように時間が長くひとりで踊ることの多い作品を自主規制していることを述べていて、対象資料の上演率に影響している可能性を考慮しなければならない。

最多上演率を示した作品「四つ竹」は、古典女踊の中では上演時間が短い。この舞踊は、「海外公演の場で多く紹介される」、「県外での沖縄物産展等観光アピールに上演される機会が多い」、「県内外の祭りの行列に多く見られる」等、近年、「古典女踊のシンボルとして最も大衆化された作品である」と実演家の言及が得られた。このように適度な作品の長さ（時間的要因）、衣装や扮装に代表される作品独自の華やかさ（視覚的要因）等、選択演目として観光振興を趣旨とする公演で優先され、上演率に反映されていると思われる。世界最先端の舞踊表現を築きあげてきたといわれるバリの「プリアタン・スタイル」の舞踊が、視覚的インパクトと形態的身体動作の融合で確立されている点を鑑みた時、琉球古典舞踊においても視覚的要因の重要性はもちろん、それと競合する別の要因として、古典最多上演「四つ竹 - 女踊り」に見られる小道具（2つの竹片を両手に一組ずつ持って打ちならず一種のリズム楽器³⁾等による、聴覚的刺激が与える影響についても検討したい。

今回は上演作品とその上演率から作品選択の要因を推察したが、他に公演時間、演舞者の習熟度、作品の難易度等諸要因についても視野にいれなければならない。

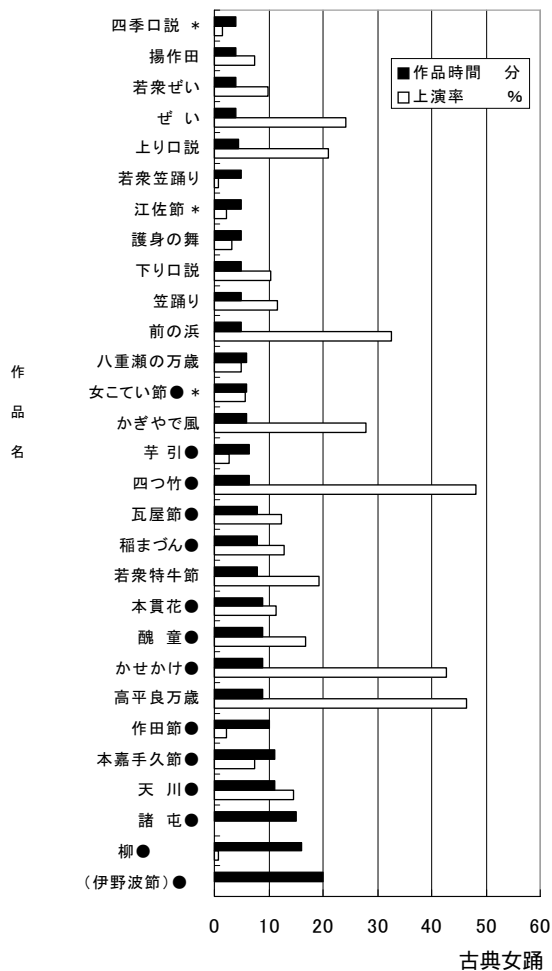


図4. かりゆし公演における古典の作品時間と上演率

要約

1. 観光振興を趣旨とする沖縄県かりゆし芸能公演の上演実態を把握するために、1993年～2001年の396公演を対象に、プログラム資料から上演作品や上演数等を調査した(表1)。
2. 上演作品を琉球舞踊作品ジャンル別に区分すると、古典舞踊は作品数27、上演数1,546回、雑踊は作品数32、上演数1,541、創作舞踊は作品数414、上演数1,036回、その他は作品数2、上演数20回、計475の作品数とその上演数4,143回が得られた。
3. 古典舞踊の上演率を他公演(国劇公演・県芸公演)と比較すると、かりゆし公演37.3%、国劇公演と県芸公演はそれぞれ48.6%、59%を占めている。これらの上演率から、古典舞踊ジャンルの作品は、観光振興を趣旨としたかりゆし公演より芸術文化の保存・継承を趣旨とする公演で多く取り上げられ、公演趣旨の相違が古典舞踊の上演率に反映されていると考えられる。

4. かりゆし公演では、上演数上位作品群が古典舞踊と雑踊に集中し、それらの中の数作品が非常に高い上演率を示した。また、全上演作品中創作舞踊ジャンルの作品が占める割合は大きく、県芸公演や国劇公演に比較すると顕著であった。
5. かりゆし公演の古典上位作品は、降順に「四つ竹 - 古典女踊り」、「高平良万歳 - 古典男踊り」、「かせかけ - 古典女踊り」、一方、対照にした県芸公演では、「かぎやで風 - 古典老人踊り」、「高平良万歳」、「かせかけ」が挙げられた。両公演でそれぞれ第一位の上演率を占めた「四つ竹」と「かぎやで風」について、「四つ竹」は扮装等視覚的にインパクトが強く観光振興を趣旨としたかりゆし公演で、一方、後者の格式が尊重されている「かぎやで風」は、伝統保存を趣旨とする県芸公演で最も上演率が高く、両方の舞踊の特徴がそれぞれの公演趣旨に適した代表作品として選択されたことが示唆される。さらに両公演の趣旨に左右されず、高度な技をもつ作品として評価されている「高平良万歳」と知名度が高いといわれる「かせかけ」は、共通して上演率が高い。

このように、かりゆし公演は古典舞踊と雑踊作品の一部がプログラム構成において主流になり、上演作品として定着していることが分かった。同時に、多数の創作舞踊の出現は、古典の継承と発展に対峙する課題として、バリ舞踊をはじめ多くの伝統芸能が抱える状況に類似し、かりゆし公演の場合も例外でないと考えられる。

また、今回は送り手(企画・実演家)側を調査した結果ではあるが、かりゆし公演では時間的・視覚的要因が作品の上演率の高さに影響することがわかり、その他、知名度や高度性等評価要因についても示唆された。今後さらに資料の充実を図り作品の上演率とその要因について検討したいと考えている。

謝辞

本調査研究にあたって、資料収集に御協力頂いた沖縄県かりゆし文化振興会の職員の皆様に厚くお礼を申し上げます。又、作品分類等において貴重なご意見や教示を賜りました芸能研究家の當間一郎氏、そして聞き取り等に答えて頂きました舞踊家の玉城節子氏、島袋君子氏、さらに資料収集を手伝って下さった若い舞踊家の皆様方に心より感謝致し、紙面をもってお礼申し上げます。

資料

舞踊公演資料
1993年度沖縄県かりゆし芸能公演プログラム - 39公演 -

1994年度沖縄県かりゆし芸能公演プログラム - 48公演 -
 1995年度沖縄県かりゆし芸能公演プログラム - 48公演 -
 1996年度沖縄県かりゆし芸能公演プログラム - 45公演 -
 1997年度沖縄県かりゆし芸能公演プログラム - 49公演 -
 1998年度沖縄県かりゆし芸能公演プログラム - 48公演 -
 1999年度沖縄県かりゆし芸能公演プログラム - 42公演 -
 2000年度沖縄県かりゆし芸能公演プログラム - 48公演 -
 2001年度沖縄県かりゆし芸能公演プログラム - 29公演 -
 舞踊公演資料
 「沖縄県かりゆし芸能公演」出演に際しての留意事項,
 2003. (財) 沖縄県文化振興会 文化事業課
 舞踊公演資料
 海洋博記念公園主催定期公演「新春の宴」, 「中秋の宴」
 1995-2000, 「舞へのいざない」2000
 比較資料
 1972～2005年度沖縄県芸術祭古典芸能公演プログラム
 - 62公演 -
 1967～2002年度国立劇場琉球芸能公演プログラム - 37公
 演 -

引用文献

- 1) 勝連繁雄. 2001. 琉球舞踊の世界. ゆい出版. 245 pp.
- 2) 宜保栄治朗. 1996. 琉球舞踊入門. 那覇出版社. 28 pp.
- 3) 金城光子. 1978. 学校における沖縄の踊り. 沖縄の踊り教材研究会. 50 pp.
- 4) 国立劇場調査養成部情報システム室編集. 1998. 国

- 立劇場30年の公演記録. 民俗芸能篇 日本芸術文化振興会. 128-153 pp.
- 5) 当間一郎 (監修). 1992. 琉球芸能事典. 那覇出版社. 25 pp.
 - 6) 花城洋子. 2000. 琉球舞踊におけるコンクールの推移と実態に関する調査. 比較舞踊研究 6巻1号. 1-12 pp.
 - 7) 花城洋子. 2001. 琉球舞踊コンクールにおける批評文の役割 - 型の基準化の観点から -. 比較舞踊研究. 7巻1号. 21-32 pp.
 - 8) 花城洋子. 2005. 近年の琉球舞踊における芸能活動の実態. 名桜大学総合研究. 名桜大学総合研究所紀要. No.7. 75-87 pp.
 - 9) 花城洋子. 2006. 琉球舞踊コンクールの課題作品の重要性と特性についての考察. 比較舞踊研究. 12巻1号. 54-65 pp.
 - 10) 花城洋子. 2006. 沖縄県芸術祭における舞踊公演の実態 - 1972年～2005年 -. 沖縄芸能史研究会会報. 第341回研究会報告.
 - 11) 本田郁子・河合徳枝. 2001. 現代バリ島の戦略 - プリアタン・スタイルについて. 民族藝術 VOL.17. 民族芸術学会. 125-138 pp.
 - 12) 本田郁子. 1999. バリ島の文化主導型発展戦略にみる伝統舞踊の再開発とエスニシティ. 体育の科学. vol.49. 537-543 pp.
 - 13) 琉球政府文化財保護委員会 (監修). 1972. 沖縄文化辞典. 東京堂出版. 334-335 pp.